

経済・金融 フラッシュ

雇用関連統計 13年3月 ～雇用情勢は持ち直しの動きが継続

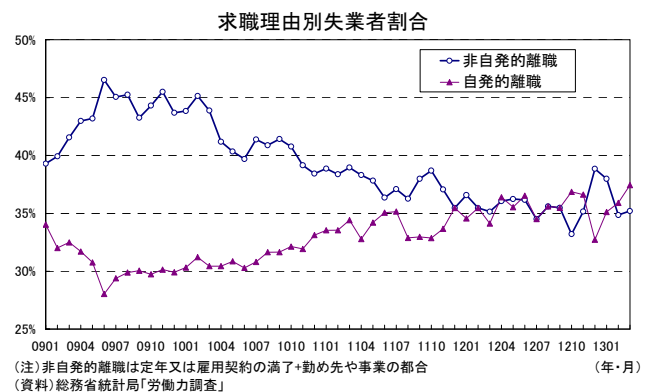
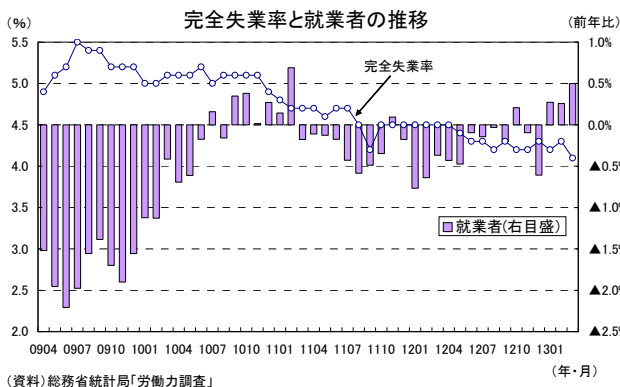
経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 失業率は前月から0.2ポイント低下の4.1%

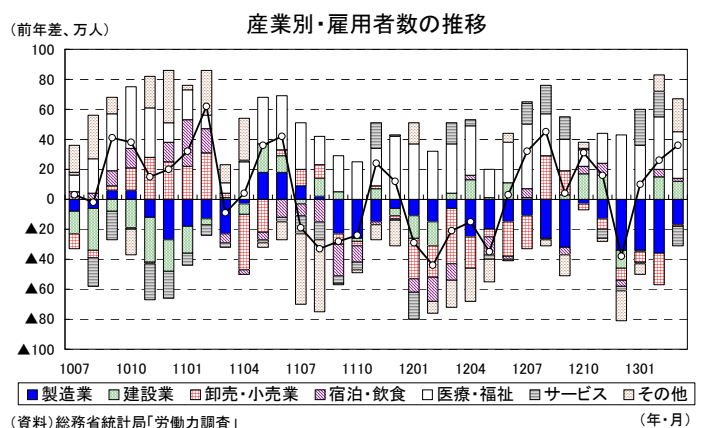
総務省が4月30日に公表した労働力調査によると、13年3月の完全失業率は前月から0.2ポイント低下し4.1%となった（QUICK集計・事前予想：4.3%、当社予想は4.2%）。

労働力人口が前月から▲20万人の減少となる中、就業者数の減少が▲1万人にとどまったため、失業者数は前月に比べ▲17万人の減少となった。就業者数は3ヵ月ぶりの減少となったが、過去2ヵ月で43万人の大幅増となった反動による面もあり、基調としては持ち直しの動きが続いていると判断される。また、失業者の内訳を求職理由別（季節調整値）に見ると、自発的な離職による者（自己都合）が前月に比べ2万人減の100万人、雇用契約の満了や勤め先や事業の都合といった非自発的な離職による者が前月に比べ5万人減の94万人となり、前月に続き自発的な離職による者が非自発的な離職による者を上回った。失業の深刻度は若干和らぐ形となっている。



雇用者数の内訳を産業別に見ると、製造業が前年比▲17万人減（2月：同▲36万人減）と19ヵ月連続の減少、卸売・小売業が同▲1万人減（2月：同▲21万人減）と6ヵ月連続で減少したが、ともに減少幅は前月よりも縮小した。

一方、復興関連事業の本格化を背景に建設業が前年比12万人増（2月：同15万人増）と



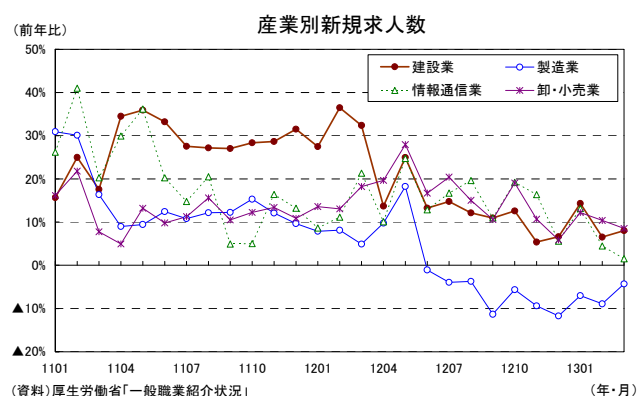
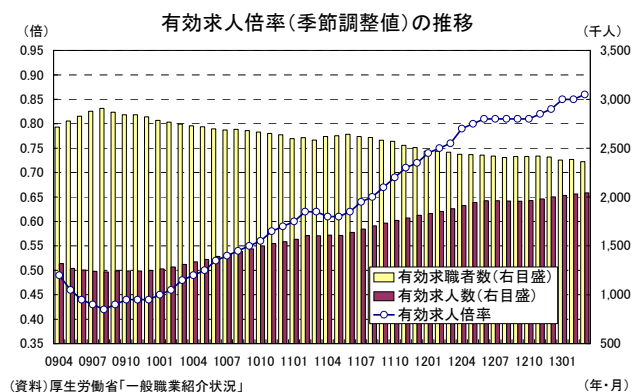
なったほか、高齢化の進展に伴う需要の拡大を背景として医療・福祉は前年比 31 万人増（2 月：35 万人増）と好調を維持した。

2. 製造業に下げ止まりの兆し

厚生労働省が 4 月 30 日に公表した一般職業紹介状況によると、13 年 3 月の有効求人倍率は前月から 0.01 ポイント上昇の 0.86 倍となった（QUICK 集計・事前予想：0.86 倍、当社予想も 0.86 倍）。有効求人数が前月比 0.6% と 6 ヶ月連続の増加となる一方、有効求職者数が前月比▲0.9% と 2 ヶ月ぶりの減少となった。

有効求人倍率の先行指標である新規求人倍率は前月から 0.04 ポイント上昇の 1.39 倍となった。新規求人数は前月比▲1.6% と 5 ヶ月ぶりの減少となったが、新規求職申込件数が前月比▲4.3% とそれを大きく上回る減少となったことが、求人倍率の改善に寄与した。

新規求人数を産業別に見ると、卸売・小売業（前年比 8.5%）、建設業（前年比 8.0%）が大幅な増加を続ける一方、製造業は前年比▲4.3% と 10 ヶ月連続で減少した。ただし、製造業の減少幅は 2 月の前年比▲8.9%からは縮小した。



雇用情勢が全体として持ち直しの動きを続ける中、製造業の不振が目立つ形となっていたが、3月は雇用者数、新規求人数ともに減少幅が前月よりも縮小した。単月の動きだけで判断するのは早計だが、鉱工業生産が昨年 11 月を底として緩やかに回復していることを反映し、製造業の雇用情勢も徐々に持ち直しに向かうことが見込まれる。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。